# 指導計画案

## 指導上の重点目標

**俳諧**

1　俳諧の特質を理解させる。
2　季語・切れ字の表現上の効果を確認させる。
3　作者のそれぞれの俳風を理解させる。

## 学習活動

### 導入

❶ 俳諧・作者について知っていることを発表する。知技
❷ 俳諧の歴史・作者について理解する。知技 思判表

### 展開

❶ 音読し、印象に残ったところを発表する。思判表
❷ 季語と季節、切れ字、句における「切れ」の位置を確認し、通釈する。知技 思判表
→「学習のポイント」1・「言葉と表現」1
❸ 季語の果たす役割について考え、発表する。思判表
→「学習のポイント」2

### まとめと発展

❶ 印象に残った句を選び、鑑賞する。主態
→「学習のポイント」3

## 指導上の留意点

❶ 知っている句をあげさせることで、俳諧が今でも親しみやすい表現のジャンルであることを理解させる。
❷ 俳諧が、和歌や連歌につながるものであること、芭蕉・蕪村・一茶が江戸時代を代表する俳人であり、それぞれ独自の世界を持つことを、便覧などを活用し確認させる。
❶ 俳諧独特の美しい調べに注意させる。生徒に繰り返し音読させ、好きな句を暗誦させてもよい。
❷ 季節に対する考え方の現代とは異なる点、共通する点に注意しながら、日本人の季節感について理解させる。代表的な切れ字「や」「かな」「けり」の果たす役割を理解させる。
❸ それぞれの句における季語の果たす役割について考えさせ、作品の理解を深めさせる。
❸ それぞれ句の内には作者が現実に目にしている景もあれば、時空を超えて読み手のまぶたに浮かんでくる〈景〉もある。それらが僅か十七音

に凝縮される言葉選びの巧みさ、あるいはそうした作を詠み出した作者の状況、境遇などといった着眼点を与え、多角的な鑑賞を引き出したい。